

第 1 回平成 2 9 年 3 月 2 7 日那須雪崩事故検証委員会  
会議要旨

- ◎ 日 時 平成 2 9 年 4 月 1 6 日（日） 1 3 : 0 0 ~ 1 6 : 2 0
- ◎ 場 所 栃木県公館中会議室
- ◎ 出席者 別紙のとおり

1 開 会

2 教育長あいさつ

《概要》

平成29年 3 月27日に那須町で発生した雪崩事故において、7 名の高校生と 1 名の教員の尊い命が失われ、多くの生徒と教員が負傷。部活動中に発生した、有ってはならない事故であり、亡くなられた方々に対し、心より哀悼の意を表するとともに、御遺族の皆様には、謹んでお悔やみ申し上げます。また、けがをされた方々の一日も早い回復をお祈りする。

この度の雪崩事故については、警察等の調査が進んでいるところであるが、県教育委員会としても、事故の状況、課題等について調査や検証を行うとともに、再発防止に資するため、本検証委員会を設置したところ。

委員及び協力委員の皆様には、御多忙のところ、快く就任をお引き受けくださり、また、日曜日の開催にも関わらず遠路はるばるお越しくくださり、御礼申し上げます。

教育委員会としては、今後、事故の再発の防止に向けた対応に全身全霊を傾けて参る所存であり、委員及び協力委員の皆様におかれては、熱心な御議論を通じて、雪崩事故の原因の究明や再発防止策の提言について御協力くださるようお願いする。

3 平成29年 3 月27日那須雪崩事故検証委員会設置趣旨等について

平成29年 3 月27日那須雪崩事故検証委員会設置要綱について事務局から説明  
《説明概要》

【事務局】

検証委員会は、第 1 条のとおり、栃木県高等学校体育連盟登山専門部主催の春山安全登山講習会中に発生した雪崩事故について、事故の状況、課題等について検証を行うとともに、事故の再発防止に資することを目的として設置

委員会は、本件事故に関して調査、検証を行う委員と、委員の求めに応じ、委員が行う調査、検証等に協力する協力委員からなる。

委員については学識経験者、登山関係者、医療関係者、消防関係者及び気象関係者などの有識者に委嘱しており、協力委員については、地元山岳関係者及

びPTA関係者に依頼。

委員会は、第8条のとおり、原則公開としているが、性質上、個人情報や未確定の情報について取り扱うこととなるため、会議を非公開で行うことも想定。

第11条のとおり、委員会は、会議の内容や進捗状況について、適宜、本件雪崩事故の関係者の皆様に説明できることとしている。

委員及び協力委員の皆様におかれては、第2条に掲げる所掌事務を遂行するため、本件事故に関して先入観を排除し、公平、中立な立場から、その専門的な知見を活かした調査を行うとともに、調査により収集した資料及び情報について、その信頼性を吟味し、特定の資料や情報のみに依存することなく、客観的及び総合的に本件事故についての検証をお願いしたい。

→ 意見なし

#### 4 委員長の選任及び副委員長の指名

設置要綱に基づき、委員の互選により戸田委員を委員長に決定。

また、委員長の指名により西村委員を副委員長に決定した。

#### 5 議事

(1) 検証委員会における情報の取り扱いについて

資料に基づき事務局説明

《説明概要》

【事務局】

1 については、設置要綱にもあるとおり、守秘義務について記載したもの。

2 の「会議、会議資料、会議録等について」について、まず(1) 会議は原則公開で行うが、要綱の「ただし、委員長が必要と認めるときは、委員会に諮り非公開で行うことができる」という部分について、内容に個人情報を含むものや、会議を公開することにより公正かつ円滑な議事運営に支障が生じると認められるとき、その他正当な理由があるときは、非公開にできるものとするとしている。

なお、この場合において、「委員長は、特に必要と認めるときは、情報の適切な管理のための措置を講じた上で会議の傍聴を認めることができるものとする。」としており、具体的には、本件事故の御遺族、被害者等の事故関係者の方々については、傍聴要領に基づき傍聴申込書兼誓約書、こちらをいただいた上で傍聴を認めることができるとしている。

2 (2) の会議資料についても、原則として公開とするが、2 (1) と同様の理由があるときは、委員長は委員会に諮って会議資料を非公開にできるものとするとしている。

2 (3) 会議の記録については、会議ごとに作成し、次回の委員会に諮って公

開するが、理由があるときは、委員長は委員会に諮って会議録の全部または一部を非公開にできるものとしている。

3の委員会が行う調査については、要綱の内容を踏まえた具体的な事項を記載。

→ 資料については意見なし。

議事の公開・非公開について協議を行い、議事のうち（3）の雪崩事故の経過については、春山登山講習会参加者、基本調査対象者等の個人情報を多数含んでいることから、事故関係者を除き非公開で行うことを決定。

## （2） 雪崩事故に関する概要等について

資料に基づき事務局説明

《説明概要》

【事務局】

[事故の概要について]

今回の事故は、栃木県高等学校体育連盟登山専門部が開催した「春山安全登山講習会」に参加中の高校生及び引率の教員が雪崩に巻き込まれたもの。

事故が発生したのは平成29年3月27日月曜日、時刻は推定8時30分。

場所は、那須町的那須温泉ファミリースキー場付近。

参加者は、生徒51名、引率教員11名、計62名であり、参加校は、県立高校が宇都宮高校、真岡高校、真岡女子高校、矢板東高校、大田原高校、那須清峰高校の6校、私立高校が矢板中央高校1校、合計7校。

事故当日の行動としては、朝6時に雪崩注意情報を確認、当日予定していた茶臼岳の登山を中止し、7時30分にラッセル訓練への変更を決定した。その後、8時にスキー場のロッジ前を出発して、推定8時30分に雪崩が発生した。

この事故により、大田原高校の男子生徒7名及び同校の男性教員1名、合計8名が死亡した。また、男子生徒2名が重症、男性教員1名を含む38名が中等症・軽傷を負ったが、現在は全員が帰宅。

[春山安全登山講習会の概要について]

今回の登山講習会の目的は、次のとおり。

- ① 積雪期登山の正しいあり方を示し、生徒に理解させる。
- ② 安全登山に必要な知識・技術を習得させる。
- ③ 春山登山の事故防止に役立てる。

本講習会の沿革は、昭和33年に栃木県山岳連盟と栃木県高等学校体育連盟登山専門部の共催により、第1回春山有雪期安全登山講習会が開催、昭和40年に栃木県高等学校体育連盟登山専門部独自の講習会となって現在に至っている。

講習会の位置付けとしては、4月・5月の登山を計画している学校はこの講習会を受講することとしており、参加する学校は、部活動の一環として校長の許可

のもとに参加することとなっている。

今回の春山安全登山講習会の計画立案から参加者決定までの経緯は以下のとおり

- ① 平成27年11月27日に登山専門部は、平成28年度春山安全登山講習会を含む平成 28年度行事計画を立案。
- ② 平成28年 4 月15日、登山専門部において、平成28年度春山安全登山講習会を含む平成28年度行事計画を承認。
- ③ 平成28年11月24日、登山専門部は、平成28年度第 2 回専門委員会議において、平成28年度春山安全登山講習会の内容を検討。
- ④ 平成29年 2 月20日、登山専門部は、開催通知と講習会の参加申込書を加盟校に メールで送付。
- ⑤ 平成29年 3 月12日、登山専門部の教員が平成28年度春山安全登山講習会の会場となる那須温泉ファミリースキー場ゲレンデ、幕営地の積雪状況などの現地調査を実施。

なお、各校における講習会の参加申込みの状況は表のとおり。

[雪崩に関する県の対応状況について]

27日朝の 9 時30分に県警本部から那須町の旅館から110番通報があったという第 1 報。

第 1 報を受け、9 時35分頃から関係部署・機関に情報の収集、あるいは伝達作業を行い、この時点で自衛隊、県の防災ヘリ、県警ヘリの出動準備を要請。

9 時55分には、県警からの情報確認、10時には那須地区消防本部から情報提供があった。

10時に県の災害警戒本部を設置。

10時27分、那須日赤のDMA T（災害派遣医療チーム）に出動の要請

10時35分、県内の消防の広域応援、自衛隊の災害派遣の方針を決定し、37分には、陸上自衛隊の12特科隊に災害派遣を要請。

10時44分、県内消防に広域応援を要請し、11時58分にはさらに広域のDMA Tの出動要請を行った。

12時25分には、消防庁に対し緊急消防援助隊を要請。

当日は悪天候で、ヘリの出動の待機要請をしていたが、飛べない状況。

動員体制としては、消防136人、警察84人、自衛隊150人という、370人体制での救助活動、トリアージ作業、搬送作業を行った。

18時20分には心のケアを目的に、岡本台病院のD P A Tの先遣隊が出動。

現地の指揮本部は19時10分に解散した。

[事故発生後の対応状況]

保護者説明会を参加校で28日から29日にかけて、参加した生徒の保護者を対象に開催。

大田原高校では、29日に全校生徒を集めて事故の報告をするとともに、亡くな

られた生徒・教員に哀悼の意を捧げ、あわせてスクールカウンセラーを活用し、生徒の心のケアに努めた。また、同日、全校保護者を対象とした説明会も開催。

参加校には、28日以降、学校配置のスクールカウンセラーやスーパーバイザーの派遣により、現在も生徒や教員への精神的ケアを継続中。

また、新学期が始まる前の4月5日と6日の両日、県精神保健福祉センターによる、心のケア緊急支援研修会を実施。

教育委員会は、参加校に対して、初期対応として、けがの程度などの被害状況の把握や、引率教員及び参加生徒の状態に配慮しながら事故に係る事実関係の聞き取りを実施、

引率教員や参加生徒から聞き取った事故当日の行動等について、時系列に整理し、これを基本調査とした。

具体的には、引率教員は、3月30日から31日にかけて各校に依頼し、管理職等による聞き取り、または本人の記載により作成することとした。

また、参加生徒については、4月6日から10日にかけて各校に依頼し、生徒の状態によって可能な範囲で作成してもらうこととした。

《質疑等》

【委員】

栃木県高等学校体育連盟（以下「高体連」）や高体連登山部会の組織体制・事業計画等の資料を提供願いたい。

【事務局】

後日提出する。

【委員】

講習会を実施するに当たり非常時の連絡体制はあらかじめ決まっていたのか。

【事務局】

現地では講師の教員にトランシーバーを持たせて、緊急時には本部の教員の連絡をすることとしていたと聞いている。緊急時の連絡体制について連絡網などを整備していたかどうかは確認できていない。

【委員】

本部との連絡体制に加え各参加校や参加生徒の保護者への連絡体制は。

【事務局】

全ての学校を確認しているわけではないが、各学校では、保護者の連絡先等を記載した、詳細な「しおり」を作成していると聞いている。

【委員】

各学校が作成したしおりについて資料として提出願いたい。

【事務局】

後日提出する。

【委員】

講習会の立案から決定までは例年同じような流れで行っているのか。

【事務局】

例年同じ流れで、時期的にも同じ時期に行っていると聞いている。

【委員】

平成29年3月12日の事前調査について、具体的にどこを調査したのかが知りたい。

【事務局】

スキー場のゲレンデや幕営地の積雪状態を確認したと聞いている。

【委員】

調査範囲について地図で示していただきたい。

【事務局】

地図に調査範囲を表示した資料を後日提出する。

【委員】

講習会の位置付けについて、4月・5月に登山を計画している学校はこの講習会を受講とあるが、この学校というのは何を指しているのか。指導者か、参加生徒か。

【事務局】

その学校の顧問と生徒が対象になっている。

【委員】

4月、5月の登山には新入生は参加しないのか。

【事務局】

新入生については、学校により参加名簿の中にプラス新入生というふうな書き方をして新入生も参加させる学校もある。

【委員】

登山の講習会においては、気象情報の収集というのは非常に重要であるが、今回は、誰が気象情報を収集していたのか。

【事務局】

専門委員長が本部のほうで確認していたと聞いている。

【委員】

顧問と講師のどのように区分していたか。

【事務局】

経験の長い顧問が講師という形で実技講習をしていると聞いている。

講師と講師でない者の判断は専門部が行っていた。

【委員】

講師は経験や登山に関する研修の受講歴等を確認した上で決めるべき。

講師の登山歴や登山に関する研修受講歴に関する資料を提出願いたい。

【委員】

高体連登山専門部における春山登山講習会の位置付けを知りたい。

一般的に雪が多くて、気温の低い時期のほうが難しい登山になるのに、3月のこの講習会に入らなければ4月・5月はだめというのが理解できないので、全体の流れを教えてください。

【事務局】

登山専門部の事業計画を後日提出する。

(4) 委員提出資料及び外部提供資料について

- 資料6について西村副委員長が説明

《説明概要》

【説明者】

この資料は、雪崩発生後1週間が経過した4月3日に行った調査結果の概要。

主な調査の目的は、次の2点の把握。

- ① 積雪はどのような構造を持っているか

- ② 実際に雪崩が発生した現場付近はどのような状況になっているか

調査は、那須ロープウェイ山頂駅に行き、そこから少し上って、標高が1,700メートルぐらいのところで実際に穴を掘って積雪観察を行うとともに、そこから尾根伝いに歩き、天狗岩まで行き、実際に雪崩が発生した現場を確認した。

積雪観測の結果からは、下のほうに非常に硬い雪の層があり、その上に密度の低いやわらかい層があった。また地上45cmの深さのところに硬度が極めて小さい層があった。

新しく降った雪について、その硬さと密度を測ったところ、普通、日本海側で雪がたくさん降る場所では、硬さと密度の間にある程度、経験から得られた規則性が見られるが、今回降った雪に関しては、硬さと密度の関係が違い、同じ密度でも硬さが少し弱い、そういう雪がかなり降って積もっているという状況が確認

された。

図 7 は横軸が密度で縦軸が硬さになっているが、日本海側の積雪の経験式では、例えば密度が  $260 \text{ kg/m}^3$  では、日本海側では硬さが 50kPh ぐらいだが、今回の雪では、同じ密度でも 40kPh 以下ということで、硬さが弱い傾向が見られた。

今回は南岸低気圧と伊豆付近に低気圧があったが、その低気圧の影響によりもたらされた雪が、特徴的な積雪をもたらしたのではないかと思われ、その点についてこれから解明していきたい。

また、現場を歩いて確認したところ、天狗岩周辺にはほとんど雪がなかったものの、そこから雪崩が流下した方向を見ると、まだたくさんの雪が積もっていた。

それから判断すると、この場所は風の影響により吹き払われる場所と吹きだまる場所がかなりあるのではないかと思う。

斜面で 30cm ぐらい雪が積もっていたという話があるが、それ以上にこの周辺は雪が積もっていた可能性があると考えている。

また、付近には、雪崩が破断した可能性のある雪の状況も見つかっており、そこから判断すると、50cm～60cm ぐらい斜面に積もっていたというのも、あながち間違いではなく、斜度も大体 35 度以上あると思われ、雪崩が発生してもおかしくない斜面であった。

#### 《質疑等》

##### 【委員】

資料 6、5 ページの図 4 について、積雪断面の観測結果として記載されている記号について説明をお願いしたい。

##### 【説明者】

別の資料であるが、資料 8、5 ページの図 4 の積雪断面観測結果の右側に雪質凡例がある。

＋が「新雪」、／が「こしまり雪」、○が「ざらめ雪」、●がしまり雪であるが、それがそのまま資料 6 図 4 の雪質にも対応している。

#### ○ 資料 7 について、小島委員から説明

##### 《説明概要》

##### 【説明者】

資料は、事故当日の気象概況等を解説しているもの。

3 ページは、地上天気図と気象衛星赤外面像。左上をみると、26 日の 9 時に北緯 30 度付近に低気圧が進んできて、一般的に南岸低気圧と呼ばれるもので関東地方では雪をもたらす原因になる低気圧と言われるが、この低気圧が北東に進んでいた。

また、南岸低気圧の北西側に、3 月 27 日 3 時には伊豆諸島付近にもう一つ低気



圧が発生し、これも今回の大雪の原因の一つと思われる。

雪の降る目安として、1,500m付近では－3℃の寒気が流れ込んだというものがあり、栃木県の山地では26日夜から翌日の昼前にかけて、まとまった雪が降った。

気象庁のデータでは、奥日光では41cm、那須高原で34cm、日光市土呂部で29cmを観測している。

2 ページ目の高層天気図、この動きを見ると、例えば3月25日9時には黄海付近にあった－30℃の寒気が、27日9時にかけて日本に接近することがわかるかと思う。

次第に日本付近は冷たい空気に覆われるので雪が降りやすい状態になってくるということ。

それから、右側は1,500メートルの天気図だが、このときは、－6℃の線が日本付近の北側を覆っており、那須付近では－3℃ぐらいの寒気が停滞していたということになる。

6 ページは、雪の深さの推移。そのほか、極値の更新状況というところで記述しているが、那須高原では、3月としては極値更新ということになっている。

気象台の措置としては、3月26日10時から日光、那須塩原、それから那須町に大雪・雪崩・着雪注意報を発表。それから再度、27日14時22分にかけても発表している。また、気象台では注意報だけではなく、補完情報として大雪に関する栃木県の気象情報というものを1から6まで発表した。

《質疑等》

【委員】

那須地域の雪崩注意報の基準は。

【説明者】

今回は24時間の降雪深が30cm以上と見込まれたために雪崩注意報を発表した。基準としては積雪深40cm以上の日最高気温6℃以上というものもある。

【委員】

那須高原のアメダスであるが、27日の午前3時から10時頃にかけて、風が欠測になっているのは、積雪のためか。

【説明者】

那須高原だけでなく近隣も、機器の凍結のため風の観測ができなかったと聞いている。

【委員】

5 ページの図では、1時間の降雪量が2cmを超えていて、非常に強いときが何度かあるが、過去のアメダスの記録と比較し、今回の降雪には何か特異な点はあ

るか。

【説明者】

その点について、本日は資料を持ち合わせていない。

【委員】

それでは、また改めてお話しを伺いたい。

○ 資料 8 及び資料 9 について、国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供を受けた旨事務局が紹介。

○ 本件事故の御遺族から提出された要望書について事務局から説明

《概要》

【委員長】

本件事故の御遺族から要望書が御提出されたが、その経緯等について説明されたい。

【事務局】

本日、9 時半に遺族の皆様から文部科学大臣、知事及び検証委員会宛ての要望書を受領した。各委員には検証委員会宛ての要望書の写しを配付したところ。

御遺族からは、真摯に検証するようお願いいただいたところであり、教育委員会としても、二度とこのような事故が起こらないよう、要望書に記載されている項目も含めしっかり検証していきたいと思っている。

【委員長】

私も目を通させていただいたところであるが、御遺族からは、このような事故を二度と起こさないよう真剣に検証してほしいということで、何点か御指摘もいただいている。検証委員会としては中立、公正の立場で事実に基づき真摯に検証を進めていきたい。

#### 《以下の議事は、非公開で実施》

(3) 雪崩事故に関する経過について

【委員】

引率教員への聞き取りはどのように行ったか。

【事務局】

引率教員が話す内容を他の教員が聞き取って調査票に記載した。

【委員】

聞き取りの際に、「他の教員はこう言っているがどうか。」などと突き合わせながら聞き取りを行ったのか、あるいは教員が話すことをそのまま書いたのか、どちらか。

【事務局】

内容の突き合わせはせずに、話すことをそのまま記載したものである。

【委 員】

調査票の内容に矛盾があるとすれば、それは教員それぞれの記憶の矛盾ということではいか。

【事務局】

そのとおりである。

【委 員】

1 班は資料を見る限りでは、天狗岩まで行こうとしていたのではないか。

岩と表現できるようなところは、この周辺では天狗岩ぐらいしかないが、ほかの資料と突き合わせが必要。

【委 員】

実技講習の班編成について、班の編成は経験者の班と初心者の班と書いてあるが、実際は学校単位で班を編成しているように思われる。

それから、講習会ということもあり、経験年数が長いと思われる者を主講師、経験の浅い顧問はサブという形でサポートをしながら班を構成したという理解でいか。

【事務局】

そのとおりである。

【委 員】

資料に班の編成は、経験者の班と初心者の班と書いてあるが基本的には学校単位なのか。

【事務局】

各学校は春山とか夏山とかの経験によって4段階に自己申告でレベルを書いて申し込んでいる。

【委員長】

一人一人の経験というよりは、学校の登山部の経験ということか。

【事務局】

そのとおりである。

【委 員】

ラッセル訓練の行動範囲については、どのように決定したのか。

樹林帯の中でラッセル訓練を行うという判断は、それぞれのパーティに任されていたのか、それとも一括して本部で決めたことなのか。

【事務局】

今日の段階では、不明であるため追加で調査したい。

【委 員】

天気が悪い中での計画変更というのは非常に難しい判断。

判断について、どこかに相談する仕組みはなかったのか。

例えば、登山計画審査会に一旦連絡して助言を受けるなり、何か現場の講師が意見を聞けるような仕組みがあれば、よかったのではないかと思う。

参加校は登山を一生懸命やっている学校であり、皆さん熱心で、元気いっぱいだからブレーキをかけるところが必要ではないか。

【事務局】

この講習会に関しては、登山計画審査会の審査員でもある高体連登山専門部専門委員が計画しているものであり、これまで慣例で審査会を通さずにやってきた。

【委 員】

登山専門部で審査会の委員になっているは誰か。

【事務局】

(資料により回答)

【委 員】

追加調査ということで、調査対象の教員について年齢や、勤務歴、また雪山の経験というところについて調査願いたい。

【委員長】

先に指摘があったように登山に関する研修歴も重要だと思う。

【委 員】

本来は茶臼岳に登ることが目標だったと思うが、そのルートは、樹林帯から尾根に出て茶臼岳に登るルートなのか。それとも別のルートか。

【事務局】

今回ラッセルを行ったコースとは全く別に、整備された登山コースに登る予定であった。

【委 員】

当初のルートとは全く違う場所で訓練を行ったということか。

【事務局】

そのとおりである。

【委員長】

この点は重要。今後現地調査や聞き取りなどで確認が必要になってくると思う。

【委員】

登山の講習会には目的があり、その目的をどの程度できたか、講習が達成されたのかというような評価尺度があるべきだが、この講習会ではそこが漠然としている。

ラッセル訓練に変更をしたのであれば、研修する側としては、何をどこまでやればいいのか、きちんと組み立てられたらよかったと思う。

今回の問題は指導者の問題というよりも、体制の問題ではないかを感じる。

(5) その他

- 今後の検証の進め方について委員間で意見交換

《ここから会議は公開》

- 資料の公開・非公開について確認

個人情報を含む資料4及び資料5については非公開とすることとした。

第1回委員会の議事要旨については、次回の委員会に諮ったうえで公開することとした。

6 連絡事項

7 閉 会